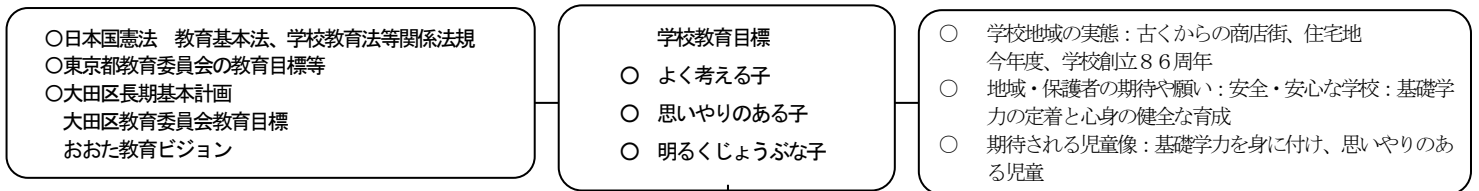


令和5年度 学力向上を図るための全体計画



各教科の指導の重点

- 基礎基本を徹底する
- 思考力、判断力を鍛え、豊かな表現力を身に付ける。
- 一部教科担任制
- 児童主体の学び→授業の中で交流の場を意図的に設ける。

外国語活動の指導の重点

- 1年生から英語に親しむ
- 3年生以上は英語に慣れ、コミュニケーション能力を培う。

総合的な学習の時間指導の重点

- 地域環境を生かした教育活動
- 地域福祉活動推進
- ICTを活用した教育
- 地域人材を活用する

進路指導の重点

- 自分の未来に夢を持たせる。
- 学年に応じた望ましい生き方を育む
- 蓮沼中学校との連携
- 特別支援教室との連携

おなづか小が目指す学校像

- 「明日も行こう」と思える楽しい学校
 - <授業が楽しい>わかる授業・学習意欲がわく工夫された授業
 - <運動が楽しい>「できた！」の実感がもてる授業・遊びの要素から技能の習得
 - <学校での生活が楽しい>良好な人間関係・やりがいのある活動・認められる自分
- 「チームおなづか」として、全教職員・保護者・地域全体で児童を育成する学校

道徳教育の指導の重点

豊かな心の育成

- 自分理解を深め、自己有用感を培う。
- 自他の尊重
- 規範意識の向上
- 思いやりと協力する態度
- 地域に貢献する意欲と態度の育成

特別活動の指導の重点

- 児童の主体的な活動を重視する
- 多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う集団にしていく。
- 認め合い、協力する体験を通して自己有用感を育てる。

生活指導の重点

- 「返事・あいさつ、後始末」等の基本的な生活習慣
- 集団の中でのルールのご共理解と実践の徹底
- 命、友達を大切にする
- 規範意識を育てる



本校の授業改善にむけた視点

指導内容・方法などの工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 体験的な学習活動や問題解決的な活動を重視し、学習への意欲や関心を高め、自ら考え、調べ、表現する力の育成を図るとともに言語活動の充実を図る。 交流など、児童相互の学び合いの場を設定し、図や言葉で自分の考えを表現、説明させて、よりよい考えに気付かせる。 一部教科担任制により教材研究を深め、効率のよい指導を目指す。 単元末のワークテストを「教員の指導の成果」と捉え、60点以下の児童に補習を行い、80点を目指して再チャレンジさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> TTや少人数指導、教員の特性を生かした交換授業等を行い、子ども一人一人の能力や個性に応じた指導に努め、基礎基本の定着を図る。 問題解決のプロセスを重視し、一人一人の自力解決や児童相互の交流を通し、思考力・判断力・表現力を育てる。 学習効果測定や都の学力向上調査の検証を行い、授業改善推進プランを生かした実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を通して、児童の自己肯定感や自己有用感を育む。学級や学校内で自分の役割を意識させた活動を意図的・計画的に行う。(係活動・話し合い活動・委員会活動・縦割り活動など) 教員のICT活用能力の向上を目指して、年に3回の校内研修と校内OJT研修の充実を図る。 特別支援教育の教員によるOJT研修の充実。配慮を必要とする児童への指導方法や対応方法を、通常の学級のユニバーサルデザインの授業に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導展開に応じた評価場面を設定する。 具体的評価目標の設定 学校公開のアンケートの記述式部分を反省し、検討して結果を職員会議で共有し、反省をもとに授業改善していく。 区などの学力調査結果を地域教育連絡協議会に報告し、学力向上のための意見を求めて、改善策を講じ、保護者に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援地域本部「スクールサポート おなづか」を立ち上げ、地域の方の協力を得て活動を進めている。(①バイオリン教室 ②夏わくイベント ③子ども見守り隊 ④お話の会など) 「返事・あいさつ・後始末」、「早寝、早起き、朝ごはん」、「家庭学習週間教科週間」を設け、全教職員で取り組む。 民生児童委員会の方との情報交換会を設け、地域と連携し、児童の健全育成を図る。 子ども家庭支援センターとのケース会議の充実